

全国高校生体験活動顕彰制度 オリエンテーション合宿

令和6年4月19日(金)～20日(土)、6月7日(金)

【目的】

実際に取り組まれている、地域活性化や地域課題解決に向けた活動の講話や体験を通して、探究のプロセスを体験的に学び、実践活動への知識と意欲を高める。また、科学的な思考方法や自然科学の探究方法を学ぶとともに、クラス内の親睦を深める。

【参加者】山口県立山口高等学校理数科1年生 40名

【プログラムの内容】

4月19日(金)…ガイダンス、講義・演習①、ワークショップ・講話等

4月20日(土)…講義・演習②、発表、実践活動のためのガイダンス

6月7日(金)…講義・演習③、発表(学校)

講義・演習①



3グループに分かれて、徳地アドベンチャー教育プログラム(TAP)を体験した。アクティビティやローエレメント体験を通して、「体験→振り返り→一般化→応用」の体験学習サイクルについて学んだ。

講義・演習①



本所職員の講話をもとにTAPを実施したグループで振り返りをした後、TAPを通して体験した「体験学習サイクル」と「探究のプロセス」を照らし合わせ、探究のプロセスについて理解を深めた。

ワークショップ・講話



本所の天体観察指導員として活躍している地域の方から、徳地での天体観察の魅力や課題、山口市内での活動の様子等について話していただいた。その後、実際に天体望遠鏡を使用しての星空観察も行った。

講義・演習②



探究のプロセスをもとに個人やグループで課題に挑戦した。担当教員から思考力や発想力を高めるような課題が出され、生徒は試行錯誤しながら決められた時間の中で、最適な答えを導き出そうとしていた。

講義・演習③



山口市職員や大学教授を山口高校に招いて、生徒の探究課題設定のための講演を行った。質疑応答の時間には、積極的に質問する生徒が多く、探究のテーマ設定について深く考える有意義な機会となった。

【参加者の声】

- ・探究活動を通して、課題をクリアするには挑戦し続けることが大切で、成功するかしないかではなくやってみることが大切だと学ぶことができた。
- ・講師の方が別の視点から考えることの大切さを面白く教えてくださいました。そして、合宿の中でいろいろな探究の活動があり、それぞれの意見・考えを共有でき大きな達成感を得ることができた。
- ・様々なプログラムを通して、3年間を共に過ごしてゆく仲間との絆を育んだり、探究への理解を深めたりすることができた。これからは、ちょっとでも疑問に思ったことや興味をもったことには、恐れず挑戦していこうと思う。

【成果と課題】

今年度より、新たな学校と連携してオリエンテーション合宿を行った。すでに探究学習に力を入れている学校だったので、オリエンテーション合宿では体験的に探究のプロセスについて理解できる内容を取り入れ、好評だった。

今後も学校のオリエンテーション合宿の目的を踏まえた上で、自然の家だからこそ行える活動を提案することが大切であるが、直接打ち合わせを行う際に、本所からの移動に時間がかかることは課題である。